

出題のねらい・解答例 〔学校推薦型選抜〕

中村学園大学短期大学部〔キャリア開発学科―公募制Ⅱ期〕

【漢字の書き取り】

問題の指示に従い、漢字を正確に記述する。

【小論文】

〈出題のねらい〉

小論文では、図の中のグラフの数値を読み取り、その読み取った数値から自分自身の考えを論理的に表現できるかを問うている。グラフの数値を読み取る形式を採用したのは、現代社会では与えられた情報を読み取る力や読み取った情報から結論を導く力が必要とされているからである。

今年度は、内閣府「2019年 男女共同参画社会に関する世論調査」より、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方（2019年、男女年齢階級別）に関するアンケートの結果を出題した。与えられた資料を基に、受験者がどこに着目し、自分自身の卒業後も見据えたキャリアをイメージしつつ、限られた文字数の中でどのように表現できるのかについての理解を問う問題とした。

〈講評〉

問題一 漢字の書き取り

漢字の書き取りの正解は①大義、②奇想、③援護、④背、⑤把握、である。間違えの例としては、①大義は正答者がおらず、②奇想と④背についても正答率が低かった。漢字を学習する際は、その意味を理解しながら覚えるようにする必要がある。

問題二 小論文

小論文は、図表の読み取り能力と論理的な文章能力の2点を重視した。

まず図表の読み取りについては、男女年齢階級を問わず、全体的に家庭生活や地域・個人の生活を優先したいという希望を持つ一方で、現実には仕事を優先していることが伺える。特に男性は、プライベートを充実させたいという希望とは裏腹に、現実には「仕事」のみを優先している割合が、全年代に亘って半数近くに上る。加えて、「仕事と家庭」や「仕事と地域・個人の生活」など仕事の優先順位を高くしている人を含めると7から8割前後に達する。一方、女性に目を向けると、男性ほどではないものの、やはり仕事を優先する割合が高く、全年代に亘って3～4人に1人の割合で、仕事を最優先にしている。また同じような割合で「仕事と家庭」の両方を優先しているという回答者も多い。受験者は、多くの数字が並ぶ中で、主要なトレンドは抑えていたようである。

また論理的な文章能力についても、アンケート結果を通して、キャリアイメージを通した論点構成になっていた。受験者全員が、希望と現実とは、依然として乖離しており、ワークライフバランスが大事だということ、またワークライフバランスを大事にするために、将来のキャリアに備えて資格取得やスキルを獲得することの重視性を指摘していた。